



四季折々の移ろいを映し出す。

春は桜の花びらが舞い散り、夏には青々とした緑と澄んだ水が映り込む。

秋には紅葉が色鮮やかに染まり、冬には雪の結晶が静かに降り積もる。

たとえば、「春風と共に舞い上がる桜の花びらが、静かなる水盤に落ちては消え、四季の巡りを感じさせる。」

また、「夏の昼下がりに、陽の光が水面に踊り、木々の緑がそのまま映し出される。」

移映（いえい）

～水盤に映る日本の美しさを心で味わう～

「移ろいを映す」と「和を感じる」という意味を込めている。

日本の四季や風景の美しさを水鏡に映し出す情景をイメージし、気候や季節などの変化を映し出し、日本の和を感じさせる。

私が実際に城崎温泉を訪れた際に、池に橋と周りの植物が反射で映り、水鏡になっているのを目にし、感動したことがある。そのことをきっかけに、水鏡といった手法を活用し日本の建築物を映し出し、

実物とまた少し違った形の2パターンで見れる効果がありより日本の美しさを外国人にも感じてもらうようにした。

法隆寺金堂などの日本の建築物の場所で使われる。